

子供のほめ方・叱り方

【プログラムのねらい】

子供が社会人として成長していく上で大切な柱の一つ、「よいこと」「いけないこと」の判断を身に付けていくには、「ほめられる」「叱られる」という体験、家庭教育が必要です。

表面的でない「ほめ方」、感情的でない「叱り方」など、難しいと思われがちなその効果的方法を学びます。

【プログラムの展開例】（時間 60 分程度）

	○進め方 ◎ことばかけ	留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介をします。 ○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。 ○自己紹介やゲームを行い、緊張を和らげたり、参加しやすい雰囲気づくりをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な話し方を心がけます。 ○今日のプログラムについて、ポイントをしぼりやすく説明します。 ○参加者に気を配り、ゲームに参加できていない人や戸惑っている人には、明るく声かけをして参加を促します。 ○ゲームが終わるまでに、次の活動にスムーズに移れるようにグルーピングしておきます。 ○1グループにつき5～6人（全体の人数が少ない場合は3～4人）を目安に編成します。 ○導入で時間を取りすぎると展開やまとめの時間が少なくなります。あらかじめ時間配分を考えて進めていくようにします。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワーク1のエピソードを読んでみましょう。 ◎それぞれの異なる立場（とおるくん、まゆみさん、かけるくん、ひろ子さん）で考えましょう。 ◎①の気持ちから、まゆみさん、ひろ子さんの好ましい対応の方法を考えてみましょう。 ◎子供たちが問題を解決できるような援助の方法を考えてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の物の取り合いは、よくあるトラブルです。今までの体験をもとに気付いたことを書くよう助言します。 ○年齢の差や親同士の気遣いは主たる原因を薄くしていないかの気付きを大切にします。 ○遊びのルール「順番を待つ」「譲り合い」「言葉で伝える」の学びを、見守り育てる大切な時であることを認識します。 ○資料を参考に見てもらいます。 叱り方のコツや子供の気持ちを理解してもらいます。

	<p>◎ワーク2では、思うように自分がコントロールできない状況にある時、どのようしたらよいか考えてみましょう。</p> <p>◎グループで①について話し合ってみましょう。</p> <p>◎ほめるタイミングと言葉かけについて考えてみましょう。</p>	<p>○資料2を参考に見てもらいます。 自分だけではないこと、みんな同じ気持ちになることがあることを知ります。</p> <p>○どんなに腹が立っても、たたくことはいけないことを再認識します。</p> <p>○子供に、自分でしたことの結果を引き受けさせましょう。そこから学んでいきます。</p> <p>○子供が安心し、安定していられるようにたくさん愛情を示していくことが大切です。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>◎今日の学習のまとめをしましょう。</p> <p>○参加者一人一人に今日の学習を通して考えたことや感想を書いてもらいます。 (ふりかえり)</p>	<p>○今日の学習を振り返り、特に印象に残ったことを中心に書くように話します。</p> <p>○あらかじめ、数人の人に感想を発表してもらうようお願いをしておきます。</p> <p>○発表を共感的に受け止め、発表に対して手短かにコメントします。</p> <p>○子供は親と話をしたり、親にほめられたり、叱られたりしながら、親の愛情を受けとめ「よいこと」「いけないこと」の判断を身に付けていくので、忍耐強く接していくことが大切であることを話します。</p> <p>○子供の人格を否定することのない叱り方、子供のやる気や愛着の心を育てるほめ方を心がけていきたいものです。</p>